

一つぶのお米

昭和学院小学校三年 山本 純鈴

「信じられない。たったのこれだけ。」

げん米になつたお米を見て、わたしはおどろききました。お米が計量カップの四分の一までしか入ってなかつたからです。

去年、大きなバケツを二つ使つて半年以上かけて稲を育てました。私はお茶わんにご飯つぶを残してしまふことがあるので、自分で育ててみたら一つぶの大切さに気がつくはず

と、お母さんが道具を用意してくれたので、ちようせんすることにしたのです。

調べながら育てたので、むずかしくはなかつたけれど、毎日の世話が本当に大変でした。雨の日にはバケツから水があふれないように重いバケツをのき下にいどうさせたり、暑い日には水がかかかないように気をつけて、風が強い日はバケツが倒れないようにしました。私がお世話をできない時は家族に手伝つてもらいながら、なんとか秋にしゅうかくをして

やっとお米にできたのに、とても少ない量だったのでおどろきました。農家の人が大きな田んぼで育てることはもっともっ和大変なんだろうなと思いました。

自分で育てたお米だけでは少なすぎたので家にあつた白米とまぜて、一つぶもこぼさないように注意してお米をといでたきました。

小さなおにぎりにして食べると、いつもよりご飯が何倍も美味しく感じました。稲を育てるには時間がかかつたのに、あつという間に

に食べ終わってしまいました。

お母さんが私に伝えたかつた、一つぶのお米の大事さがわかつた気がします。お米をむだにしたら作つてくれた農家の人が悲しむと思うので、これからはもつと大切に食べようと思います。今、世界では、まずしくて食事ができず死んでしまう人や戦争のせいで食事ができない人がたくさんいるそうです。お米と同じように、全部の食べ物をもつと大切にしようと思いました。